

議長（明和善一郎君） ただいまの出席議員数は8人です。定足数に達しておりますので、休憩前に引き続き会議を開きます。

8番 前原英石君。

8番（前原英石君） 前原でございます。よろしく願いをいたします。

本日は改選後初めての定例議会での一般質問となりますが、私にとっては平成25年6月定例議会での一般質問以来2年ぶりにここに立たせていただいております。

改選後、再びこの場で質問ができますことに対して村民の皆様には感謝申し上げますとともに、皆さんの負託に応えるべく鋭意努力してまいりたいと思っております。

また、村民の皆様に対しましては、国政レベルでの法案等の質問は、私たちが自らの意思で一票を投じた国会議員の先生に負託をし、その採決に臨んでいただき、結果を民主主義の精神にのっとり真摯に受けとめ、私の一般質問はこのような質問ではなく、これまでどおり、二元代表制で選ばれました村議会の一員として、舟橋村の発展と安心・安全、そして住みよい村づくりにつながるような、住民が本当に求めている身近な問題を探り、泥臭いかもしれませんが、今後も質問を続けてまいりたいと考えておりますので、今後ますますのご理解とご協力をお願いいたします。

また、金森村長におかれましても、今までどおり、小さな村だからこそできる施策を即効性を持って住民目線で提案していただくことを期待いたします。

前置きが長くなりましたが、通告をしております4点についての質問を行いたいと思います。

1点目の質問といたしましては、4月に舟橋村議会議員選挙が行われましたが、結果、2期連続で無競争という結果となりました。これは舟橋村だけではなく、全国的にも増加傾向にあるようでございます。その要因についても、新聞、テレビなどでは、なり手不足、議員報酬、議会に対する関心度の低さなどといったような課題について取り沙汰されておりましたが、村長は今回の選挙についてどのように捉えておられるのかお聞きしますという質問を通告しておりましたが、先ほどの川崎議員さんの質問に対しての答弁で十分理解ができましたので、私に対する答弁は求めませんが、もし村長のほうで補足答弁があれば行っていただきたいと思っております。

次に2点目の質問として、今月16日に富山県町村会町村会長に就任されます金森村長ですが、町村会の長い歴史の中で舟橋村の村長が会長に就任されることは、合併前、合併後をあわせましても今回初の会長就任ということで、私どももいたしましても大変

名誉なことであると喜んでおるところでございます。

今後は与えられた任期の中で、舟橋村はもちろんのこと、5町村が抱えている多くの課題解決に取り組んでいかれることと存じますが、会長としての意気込みや抱負についてお聞きしたいと思います。

続きまして、3点目の質問ですが、地方創生についての質問をいたします。

さきの臨時議会での提案理由説明の中で、平成27年度は全国の自治体が生き残りかけた特色あるまちづくりをスタートする地方創生元年であると述べておられました。

議会でも同様な思いを持ち、先月の臨時議会におきまして地方創生特別委員会の設置を提案し承認され、微力ではございますが、私とその委員長として選任いただきました。委員会といたしましても、議長の理解を得ながら、今後、地方創生に対する調査研究及び諸施策への対応等の検討を進めてまいる所存であります。

また、今後の予定といたしましては、まち・ひと・しごと創生「長期ビジョン」と「総合戦略」など、全体像を理解していくための勉強会や視察、また、今後5カ年の地方版総合戦略策定のための議論も重ねてまいりたいと考えております。しかしこれは、議会内だけの一方的な勉強や議論では、当局との両輪として機能を十分発揮できないと思っております。

そのためには、議会と当局が一体となってそれに取り組んでいかなければならないと考えますが、村長の考えをお聞きします。

また、先日、石井知事から、地方創生に向けた国への働きかけ、とやまの未来創生戦略策定スケジュール(案)ではございますが、資料をいただきました。今回いただいた資料も含め、ほかにも国や県からリアルタイムで送られてきているであろう情報を地方創生特別委員会にも随時伝えていただき、活用できる補助金等についても当局と一体となって検討をしていくことが、広く住民理解を得るための一つ的手段ではないかと思っておりますが、情報をいただくことによって議論も深められますし、連携も強められ、お互い理解し共有できる考え方も多くなることと思っております。そのために、議会と当局の連携については一層のご配慮をお願いいたしたいと思っております。

また、その取り組みについては、広く住民の理解を得るためにわかりやすく説明していく工夫も必要かと思っております。それが産学官金労言、そして住民による総合戦略組織の整備促進につながるものと考えます。

地方創生ということにもっと住民が関心を持ち、身近な問題として捉えてもらうため

には、まず一般住民から敬遠されがちな用語、例えば「コーホート要因法」「クラスター分析」「多変量分析」「重要業績評価指標（KPI）」などの専門用語をもっとかみ砕いて提供してもらいたいものであると思います。一部の職員にしか説明できない言葉では住民に伝わるわけありませんし、職員全体が理解し住民に説明できるよう周知していただきたいと考えます。

そうすることによって、未来を担う子どもたちやお年寄りが関心を持ち、身近な問題として捉えられ、意見を出し合うことによって、官民一体となった村づくりを協働の精神で行えるのではないかと思います。

今後、当局と専門家に加え、議会、住民を交えた形での今後5カ年の地方版総合戦略策定が行われ、その中で舟橋村の特色あるまちづくりが進められていくことを大いに期待するわけですが、村長の考えをお聞きします。

地方創生に関する最後の質問ですが、今、国の考え方の一つとして、地方への多様な支援と切れ目のない施策の展開ということで人的支援があるようでございます。それは地方創生人材支援制度でありまして、小規模市町村に国家公務員等を首長の補佐として派遣する制度であります。冒頭話しましたが、金森村長は6月16日から町村会長に就任され、最低でも任期2年間の間は、今にも増して公務が増え、県外出張などで村を空けられる日数も増え、多忙を極められることと思います。

国が切れ目のない施策の展開を行っていくとっておりますが、舟橋村にとっても、村長不在時でも切れ目なく地方創生に対する行政運営を行っていくためには、地方創生人材支援制度を活用すればと考えますが、村長の考えをお聞きします。

地方創生に関する質問は以上でございます。

4点目といたしまして、健康構想に対する職員、住民の理解度についてお聞きします。

先日、ふなはしチャレンジデー2015が行われましたが、その結果に村長も心中穏やかではないのではないかと思います。

結果、参加率70%を目指すも、それには届かず、46.3%という結果に終わりましたが、平日にもかかわらず健康増進を目的に参加されました皆様には、心より感謝を申し上げますとともに、自治会や実行委員会の皆様にも多大なご協力をいただきましたことに対しましても敬意を表したいと思います。今回のチャレンジデーが、個々の健康についてもう一度考えていただけるチャンスとなればと願っております。

さて、私がなぜここでチャレンジデーの話をしたかといいますと、勝敗はともかく、

健康増進を一つの目的としたこのチャレンジデーは、舟橋村民の健康に対する関心度を探るためのいいチャンスであったとっております。今まで健康に関するアンケート調査もありましたが、どのように結果を分析され改善してこられたのか疑問が残ります。健康な村日本一を目指す村として、また本村の動向に対しては県外からも注目をされ、他県からも行政視察もあったように聞いておりますが、今回のチャレンジデーが、健康構想を対外的にも発表し、健康日本一をうたう舟橋村にとってどのような意味を持っていたのでしょうか。その村が今回過去最低の参加率であったということはインターネットを開けば一目瞭然で、誰もが見る事ができる。それについて、村民の健康構想に関する理解度、そして職員のチャレンジデーが持つ意味の理解度について、どのように受けとめられているかお聞きします。

また、現在、健康に係る事業が幾つも展開されておりますが、今回の結果を見て、健康構想実現のためには、根本的な問題点や改善点が幾つも読み取れるのではないかと思います。

例えば住民の健康に関する関心度、団体連携の薄さ、協働に対する意識の低さなど、また垣根を越えて関係事業を成功させようとするオール役場職員としての意識の低さ、どれもが以前より当局から提案され進められてきているさまざまな施策であります。まだまだ未熟であり、住民目線に立った取り組み方とは思えません。

例えば健康構想立ち上げ初年度にあった健康フェスティバルは、その後、スマイルフェスタと変わっていったような気がします。このようにこころ変わり、一貫性がなく次から次へと当局から提案される事業について、住民や関係協力団体もついていけない状況にあるのではないのでしょうか。

今後、構想実現に向けた関係事業について、いま一度それぞれを検証し直し、改善が必要なものに対しては早急に対応していただき、今回の結果も含め、いろいろな角度から分析し、また職員、住民の理解度なども探っていただき報告していただきたいと思えます。

また現在、オレンジ・パークの公園整備、舟橋駅前の公園整備など、ほかにも幾つかプロポーザルによって進められている事業がありますが、竹内の住民として、健康構想につながる健康増進、住民のふれあいの場、子どもたちの遊びの場などとしての舟橋駅前の公園整備事業に対しては特別な思いを持って状況を見守っておりますが、今後そこを利用する住民の声をどのように吸い上げ、それを形として反映していかれるのかをお

聞きします。

住民に目を向け、そのニーズに応えながら健康増進にもつながるような公園整備を望むとともに、4年前にも質問をいたしておりますが、健康構想に対する一つの手段として、健康遊具の取り入れなども念頭に入れていただきたいと思いますし、加えて、健康の一つの拠点となるべく、いまだプランも知らされないトレーニングルームの活用なども含め、言葉だけのP D C Aサイクルではなく、実現性のあるP D C Aサイクルとして示していただきたいと思います。

以上で質問を終わらせていただきます。

議長（明和善一郎君） 村長 金森勝雄君。

村長（金森勝雄君） 8番前原議員さんのご質問にお答えいたします。

初めに、私が6月16日、町村会長に就任することで、その職責に対する抱負の質問がございました。それに対して答えさせていただきたいと思います。

議員の皆さんご承知のとおり、富山県内では、平成16年11月から平成18年3月までに市町村合併特例法、いわゆる平成の市町村大合併とも言われておりますけれども、に基づく合併が進みまして、26町村のうち14町7村が廃止されまして、5町村（朝日町、入善町、上市町、立山町、舟橋村）で構成される町村会となっております。

一方、国と地方自治体との関係につきましては、平成12年4月1日に地方分権一括法が施行されまして、従来の下克上、いわゆる国と地方との上下関係が解消されまして、「対等」という文言に表現されたわけであります。

さらに、平成23年4月28日には、地方自治に影響を及ぼす国の政策の企画及び立案並びにその実施に当たって、国と地方とが協議を行う国と地方の協議の場について定めております国と地方の協議の場に関する法律が成立いたしました。これはいわゆる国と全国の知事会をはじめとする地方六団体と協議する場であります。こういった機会が法的にできるようになったわけであります。

このような法的バックアップのある中で町村会が現在運営されてきておりますので、今後とも5町村が連携を密にいたしまして、各町村が持っている課題の対応、そしてそれを含めたそれぞれの地域が発展するよう、そしてまた町村会がさらに発展するようにと、両方あわせましてバランスのとれた審議に努めてまいりたいと、こういうふうに思っております。そのためには、議員の皆さんの温かいご指導、ご鞭撻等も賜りたいと、このように思っているわけでありまして、まだ日があるわけでありまして、その

ような気持ちで現在いることをお伝えしたいと思います。

次に、地方創生と地方版総合戦略についてのご質問にお答えしたいと思います。

まず、地方創生とは、我が国の抱えております人口減少社会と少子高齢化という大きな課題に対しまして、人口減少そのものに対する取り組みと人口が減少する社会に対する取り組みを同時に進めていくものと考えております。

具体的に申し上げますと、子どもの出生者数を増やすこと、そして少子高齢化時代に対応できる地域力を育成することにあると思います。

また、少子高齢化の課題は、今や国や地方自治体だけの問題ではなく、大学や金融機関、そして民間企業にとりましても大きな問題であることから、国からの地方創生に取り組む方針といたしまして、産学官金言労・住民で進めていくというような方針が示されているところであります。

今ほど議員からご指摘がありましたとおり、議会と当局が一体となって取り組む体制づくりは最も重要なことであると、このように認識しております。

今後の進め方につきましては、まず総合戦略の諮問・承認機関といたしまして、議会、自治会連合会長等の住民の代表者、そして村当局で構成する舟橋村総合戦略策定委員会を立ち上げまして、それと同時に、総合戦略案の策定、子育てしやすい環境づくり、地域力育成などの施策の提案並びに事業の実施機関といたしまして、民間企業、富山大学、金融機関、事業別に関係する住民、そして行政による舟橋村創生プロジェクト総合推進会議を立ち上げてまいりたいと考えております。

議会からは、ぜひとも舟橋村総合戦略策定委員会の委員に入っていていただき、地方創生総合戦略の承認機関としてご協力いただきたいと思っております。

一方、総合推進会議は、子育て環境部会、コミュニティ空間等整備活用部会、宅地造成部会、エイジレス部会、農業産業化部会の5つで構成いたしまして、先ほど言いましたように、産学官金、関係住民によるチームによって事業を実施してまいりたいと考えております。

地方創生人材支援制度についてでありますけども、この制度は地方創生に積極的に取り組む市町村に対し、原則人口5万人以下の市町村を対象といたしまして、国家公務員並びに大学研究者、民間シンクタンクなどを首長の補佐役として派遣し、地方創生に関し、市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定や総合戦略の施策の推進を担う事業であります。

派遣されるコーディネーターの役割は、データの分析方法、目標の設定、施策の立案方法、検証方法などを正しく導き出すことでありまして、施策の提案や事業の実施に携わる人材ではないと認識しております。

舟橋村創生プロジェクト総合推進会議には、富山大学の教授及び中央のシンクタンクの方がおられますので、制度活用の必要性はないと私は思っているわけでありまして。こういった方がおられるということは非常にありがたいなというように思っております。協力いただけるものと思っております。

いずれにいたしましても、地方創生プロジェクトは住民のご理解と協力なくしては成功できないものと思っております。今後も情報を議会、そして住民の皆様には十分お知らせいたしまして、そういったことをお互いに共有し合って、ともに事業の推進に努めてまいりたい、協力していただきたいと、こういうふうに思っているわけでありまして、よろしくお願ひしたいと思ひます。

次に、健康構想に対する職員、住民の理解度についてのご質問がありました。

去る5月27日、本村でチャレンジデーを実施いたしましたが、結果は、議員ご指摘のとおり46.3%と、7年前の2007年に実施いたしました74%から大幅に低下いたしました。

この数値は、村民一丸となって取り組む姿勢や住民の地域に対する愛着の低さを示すものであり、現状の住民参画の指標として真摯に受けとめております。

また、チャレンジデーの反省事項といたしましては、本村は他の市町に比べ働き世代が多く、いわゆる昼間人口が少ないといった特徴があるということ。そして、その世代に対するアプローチが非常に弱かったこと。そしてまた、7年前に比べ、自治会や各種団体などとの協議が少なかったということが挙げられると思っております。

これらの反省を踏まえまして、来年ぜひまたチャレンジいたしまして、いい成績を上げたいと、このように思っておりますので、ご理解いただきたいと思ひます。

次に、本村健康構想についてであります。本構想の目的の一つには、地域信頼度の醸成による地域活動の活性化を掲げております。

このことは、住民自身が主体的に活動することが重要なことでありまして、行政の呼びかけに協力する体制の強化ではないと思っております。

議員より健康フェスティバルやスマイルフェスティバルのご意見がございましたが、これらは行政主導で実施するイベントではなく、あくまでも各種団体が主催、また連携し

合うなど、活動の場を拡大していくことを目的としているものと考えております。

この健康フェスティバルは、平成24年度から各種団体が主催し、活動内容の充実と新たな会員の獲得を目的に開催してまいりましたが、事業の検証の結果、団地層エイジレス世代の参加が少なかったことなどが判明いたしました。

こういったことを踏まえまして、本村といたしましては、今後増えることが予測されております団地層エイジレスの地域参入を喫緊の課題といたしまして、昨年、エイジレス世代97件の方にヒアリング調査をいたしまして現状分析を行ったところであります。

分析結果では、地域に参入したいが地域に知り合いがない、そしてまた参入方法がわからないと答えた方の割合が非常に高かったわけでありますので、地域に参入するためのきっかけづくりの場となりますエイジレスカフェを今年度実施することにしております。

健康構想は実現には時間を要しますけれども、地域の中に楽しみや居場所を見つけられるような環境整備に向けまして今後とも努めてまいりますので、皆さん方のご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

次に、舟橋村駅前公園のプロポーザルについてであります。

本件のプロポーザルは、公園の完成図形を求めるものではありません。

公園本来の目的である住民同士の地域コミュニティーを、公園というツールを活用し、どのように醸成するかを求めるプロポーザルであります。

議員より、住民の声をどのように反映するかとのご意見がありましたが、住民の要望を反映するだけでは単なるハード整備になると思っております。公園の設置目的はあくまでソフトでありますので、地域の皆さんがどのように公園を活用していきたいのか、その活用にどのように参加いただけるのかをぜひとも地区からご提案いただきたいと、このように思っているわけであります。

今月中には業者選定をいたしますので、今後地区と十分協議を重ね、地域に愛される公園整備を進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解いただきたいと思います。

以上申し上げます、私の答弁とさせていただきます。